

教団新報

定 価 1部180円(本体164円+共243円)
予約購読料 1年分 千共 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋 山 徹
編集主筆 嶋 田 恵 悟
印刷所 株式会社きかんし



対面中心で開催

第41総会期

常議員会

第19回

教団総会、開催方法について議論

第19回常議員会が7月4～5日、教団会議室(オンライン併用)で行われた。常議員29名が出席した。

総幹事報告で、秋山徹総幹事が報告。新型コロナウイルスに関連して、「ITを巡る格差や相違が生まれていることを受けて、画一化することなく、柔軟な姿勢で臨みたい」と述べた。また、教師に関することとして、東京基督教大学(TCU)と教師養成制度検討委員会、教師養成の協力を図るべく、実務協議が持たれていることを報告。教団メディア戦略および次世代伝道については、リニューアルした「教団HP」が、アクセス数を順調に伸ばしていること、オンラインミーティ

ング室の設置計画は9月の教団総会以降に本格化すること等を報告した。TCUと協議が持たれていることについて、「将来的に認可神学校の枠を広げて行くことを考えているのか」との問いがあり、菅原力教師養成制度検討委員長は、「懇談会レベルの交流を持つべく進めている」と応答した。この件は、同委員会の報告でも扱われ、協議の中で、教団の若い信徒11名がTCUに通っていること(21年度)、TCUが千葉県におけるプロテスタントの学校として良い働きをしていることが共有された。「教団立神学校、認可神学校に通う若者が少なくなっている実態を受け止める必要がある」との意見があった。

「第42回教団総会に関する件」では、先ず教団

総会準備委員会での協議内容を願望委員長が報告した。「感染対策を講じて対面で開催。ホテルメトロポリタンで2会場に分け、ガイドラインに従い、コロナ保険をかけ、抗原検査キットを配布。傍聴はオンラインのみ。

聖餐式、解放劇は行わない。国内外の来賓は招かない」。雲然俊美書記は、議事の取り扱いについて、議員が選出されていない教区もあり議員名簿が出せないことを受けて、今常議員会では議決はせず、7月中旬にオンラ

インで臨時常議員会を開催することを説明した。質疑において、感染拡大時の書面開催についての考えを問われ、石橋秀雄議長は「検討した結果、法定議案以外の様々な議案を審議することとを考えると、対面でなければという判断になった」と応じた。これに対して、書面で開催する可能性を残しておくことを求める意見があった。また、前総

会において、会期中に開票が間に合わなかったこと等を理由に、常議員選挙の半数連記を求める意見があった。

また、取り扱いについては、今日の時点で確定出来る議員は確定すべきとの意見が出たことを受けて、現在配布できる議員名簿を配布した上で、臨時常議員会を7月29日に開催することとなった。

日本伝道の推進に関する件では、小規模教会・伝道所に「信徒の友」などを配布し、教師検定試験受験者に神学書を配布することが提案された。協議の中で、「提案内容は出版局の支援であり、『伝道』という広い概念を掲げて議案を提案するのではなく、丁寧に進めるべき」との意見があった。継続の動議が出され、賛成多数で継続とした。

お知らせ
「教団新報」今号を4978・79合併号とし、次号は9月3日に発行します。
総幹事 秋山 徹

機構改定

総会に提案せず、次期常議員会に申し送り

機構改定に関する件では、原案と共に、藤掛順一常議員、佐久間文雄常議員が提案した2議案を同時に上程した。いずれも、第42回教団総会に常議員会より議案を提案することを求めるものである。

先ず、藤掛議員は、「教団機構改定の目的と課題を確認する件」を提案。機構改定の目的を「各個

教会の負担軽減による伝道推進」、課題を「教団の全体教会としての一体性の確立」とした。藤掛議員は原案が否決され、機構改定が終わってしまふことを避けるため、別議案として出した」と述べた。石橋秀雄議長は、「原案を否定するものではなく、理念を明確化するもの」と述べた。

この議案に対して、「機構改定は十分に話し合われておらず、この議案を出した上で、皆の意見を聞くべき」等の賛成意見が出された。一方、「目的」は、改定案の骨子に「出ているもので、改めて文書化する必要は無い」と述べた。石橋秀雄議長は、「原案を否定するものではなく、理念を明確化するもの」と述べた。

最後に、雲然俊美書記が原案「教団機構改定・

が、総会で原案が否決された場合に提案するものとして、議員定数のみを扱う議案を提案。「教師150名、信徒150名、推薦議員16名とする」。提案理由の中で、「現住陪餐会員数の変化と調和を求めている意見が相次いだ。また、伝道局は議長、事務局は総幹事と分けた「総括」の範囲が不明瞭等の意見があった。

協議を踏まえ、取り扱いは三役から提案があった。「①原案については採決せず、総会に提出しない。②総会の常議員会報告において扱った内容を報告。可能であれば、総会の中で意見を聞く場を設ける。③機構改定についての案件を、次期常議員会に申し送る」。以上を承認した上で、新たに提案された2議案について採決を図り、藤掛提案を可決、佐久間提案を否決した。(新報編集部報)

出版局

職員の努力により、2年連続赤字回避

出版局から2021年度事業報告、決算報告、2022年度事業計画報告がされた。

まず、山北宣久理事長から、昨年度は目標の売り上げには達しなかったものの、約700万円の利益を得ることができたことが報告され、「これ

で2年連続赤字を回避できたが、これは職員の多大な努力やステアリングコミッティー等での連絡強化等のゆえである。なおコロナ禍の中で状況は厳しく、心引き締めて新しい年度に歩んで行きたい」と結んだ。

次に飯光局長代行から

決算報告がされ、その中で、「定期刊行物の売り上げ減少に歯止めがかからず、引き続き課題として取り組む」、「黒字決算の主な要因は、良い書籍を発刊でき売り上げが増加したこと、教団年鑑発行により広告収入を得ることができたこと、また、

未払印税より約60万円の献金が献げられる等の協力もあり、未払金の圧縮を着実に進めることができたとした」と報告された。

その後、加藤真澄プロジェクトマネージャーから今期の会計状況について、5年前の約5000

万円赤字という状況から考えると、現在の状況はV字回復と言ってよい状況であるとのコメントがあった。これは従来、新刊本を発行するとき初版の発行部数が多く製造原価が高かったが、初版を堅めに刷り重版を重ねることで製造原価を抑えたことが主な要因である。

また、「教団出版局の経営改善に関し、教団総会に向けて議案化がされたり、協議会が開催され

これらの諸報告についての質疑応答は次のとおりである。

「雑収入710万円の明細を示してほしい」という意見に対し、「委託出版256万円、助成金400万円、献金34万円が主な内容である」と大谷理経理事長が答えた。また、「教団出版局の経営改善に関し、教団総会に向けて議案化がされたり、協議会が開催され

(小林信人報)

2022年度 ③

教区総会報告

四国
教区

開会総会(書面)、再開総会(参集)、 2回に分けて実施



四国教区第81回教区定期総会は、これを開会総会と再開総会の2回に分けて行った。

教区規則によれば定期

総会は4月中に行うよう定められているが、なお残る新型コロナウイルスの影響を考慮して、先ず4月中に取り扱う必要のある議案のみ書面で決裁し(開会総会)、その後休会、影響が減少すると見込まれる6月に参集して総会を再開し(再開総会)、残る議案を取り扱うこととした。再開総会は当初例年通り2日間に亘って行うこととしていたが、日程を1日に変更した。

開会総会は5月6日を議決権行使書提出締切日に行き、議員145名中議決権行使書提出119名により成立した。准允式執行に関する件と教区教会互助に関する件(2022年度互助予算)を取り扱い、承認して、総会は休会した。

再開総会は高知教会を会場に議員参集により6月28日に行った。議員145名中98名の出席(開会時)により成立した。教団総会議員選挙を実施して、各法定議案を取り扱った。また追悼式を執

り行った。

再開総会では、現在検討を進めている四国教区教会互助制度の変更について協議する時を持ち、変更案の方向性と内容を確認して意見の交換をした。これまで教区教師謝儀規定を基準として援助額を算出していたところ、互助基準を新たに設けて算出するようにすると、また、会員数の減少により単独では互助の申請をするのが困難となる教会のために教会間協力により申請することができるようになることが主なる変更点である。

再開総会は開催日1日だけのタイトな日程となったが、何より久しぶりに参集しての定期総会であり、再会を喜び合う声が会場に満ちて響いていたのが印象的であった。

教団総会議員選挙結果
【教職】黒田若雄(高知)、寺島謙(松山城東)、松井曉郎(大洲)、大田健悟(鴨島兄弟)、上島一高(松山、篠浦千史(さや、寛牧人(伊予長浜)、岡本康夫(南国)
【信徒】長島恵子(鴨島兄弟)、脇萬里子(三島真光)、近藤康夫(新居浜西部)、菅田栄子(松山城北)、西村大吉(久万)、須賀香世(高知)、中村証二(善通寺)、大塚功(高知)
(松井曉郎報)

在日大韓基督教教会と日本基督教団との宣教協力委員会

青年伝道の実践報告と提案を聞く

6月20日、オンラインにて、第54回在日大韓基督教教会と日本基督教団との宣教協力委員会を、「両教会の宣教課題と宣教協力―コロナ禍における教会青年活動」のテーマで開催した。

在日大韓基督教教会からは、中江洋一総会長、梁榮友副総会長、金日煥副

総会長、鄭守煥副書記、趙永哲宣教委委員長、李明忠巻頭地方会長、金迅野教育委員長、梁陽日信徒委員長(発題者)、金柄鎬総幹事、金聖泰東京教会協力牧師(オブザー

バー)が出席した。

日本基督教団からは、石橋秀雄議長、久世そら副議長、雲然俊美書記、岸憲秀宣教委委員長、宮本義弘在日韓国朝鮮人連帯特設委員長、須賀舞石山教会伝道師(発題者)、秋山徹総幹事、大三島義孝宣教幹事、嶋田恵悟教団新報主筆、星山京子職員が出席した。

石橋議長の説教による開会礼拝の後、出席者紹介、前回記録確認、両教会の近況および課題の報告がなされた。

次に、梁信徒委員長(大阪教会長老)より、「ヒューマンクライシス

の時代における教会青年支援のミッションを考えると題して、ご自分の専門の社会福祉・精神保健福祉の働きをふまえて、コロナ禍の中で人々との関わりが分断されている社会において、青年たちと教会をつなぐ活動や、青年たち相互のネットワークを作り出す教会活動の実践例について発題がなされた。

続いて、須賀舞石山教会伝道師より、「教会青年活動報告―スマホひとつでできる青年向き福音伝道」と題して、スマホを用い、SNSを駆使し

ての、様々な内容の福音発信の実践例が報告された。

コロナ禍が長引く中で、多くの人が感じている閉塞感を突き破るような、お二人の活発な伝道の実践報告と提案に、出席者一同が大きな励ましを与えられた。

最後に、毎年、両教団の議長・総会長名で発表している「平和メッセージ」を作成し、中江総会長の説教による開会礼拝をもって、宣教協力委員会を終了した。

(雲然俊美報)

ウクライナ救援募金 期間延長のお知らせ

日本基督教団では、一日も早く、ウクライナに平和と、人々の命が守られることを祈り、社会委員会を通して人道的支援のための募金を行っています。2022年6月末現在、28,987,107円の募金がささげられました。2022年4月末までの募金額10,248,316円を、支援活動を始めているACT (Action by Churches Together) Allianceに送金いたしました。

つきましては、募金期間を2022年12月末まで延長いたします。ご協力をお願いいたします。

2022年7月4日

日本基督教団社会委員長 森下 耕

◎募金期間 2022年12月末 ◎目 標 額 特に定めず
◎送 金 先 加入者名 日本基督教団社会委員会
郵便振替 00150-2-593699
(通信欄に「ウクライナ救援募金」とお書きください。)



新任教師 オリエンテーション

神学校の違いを越えて、課題を共有

新任教師オリエンテーションが6月13・14日にかけて、二日間の日程でオンラインにて開催された。

今回の参加者は、新任教師32名、教団・神学校関係者他28名、総計60名であった。昨年に続く、2度目のオンラインでの開催となったが、主催者側も参加者も共にオンラインでの参加にも慣れてきたように思われた。二日間のタイトなスケジュールの中、画面越しの短い時間ではあったが、新任教師同士が神学校の違いを超えて知り合い、牧会や教育現場等でそれぞれが抱えている悩みや課題について語り合い、共有し、また励まし合う時を持つことができた。

一日目は、古旗誠教師委員長による開会礼拝のあと、石橋秀雄教団議長より「伝道を共に担う教団の教師―コロナ下の伝道」と題して講演がなされた。コロナ下で教会と幼稚園とがいろいろと厳しい判断を迫られることが、そ

の中でも主の教会に連なる礼拝がさまざまな場所できさげられ、思いがけないところで、洗礼者が与えられたことが話された。また「牧会講和」を、昨年同様、戸田奈都子教師(川内教会)にしても牧会の体験が話され、牧師は遣わされた教会だけでなく、教会が建てられているその地域のこと、その歴史をよく学び、その土地の人を愛すること、そしてそこに住む人々とおられ、その土地の人々と共に歩んでおられるキリストと出会うことの大切さが語られた。また出身神学校の枠を超えて、地域の教会と牧師たちと繋がり、協力して伝道することによって得られる豊かさや広がりについて触れられた。新任教師たちが大いに励めと励ましを受け、また牧会について多くの示唆が与えられる講演であった。

二日目は、講演Ⅱ「教団の教師論」という題で、秋山徹総幹事による講演がなされた。教団が歩んで来た歴史を踏まえながら、教師論について、新任教師にとっては学んだばかりの、基本的なことであるがとても大事なことを、再確認する機会となった。

続いて教団の取り組みについて、宣教委岸

憲秀委員長)、社会委員会(大塚啓子委員)、世界宣教委(西之園路子委員長)、出版局(飯光局長代行)、年金局(中川義幸理事長)、部落解放センター運営委員会(亀岡頭委員長)、牧会者とその家族の相談室委員会(加藤幹夫委員長)がそれぞれの活動・取り組みについて話された。またプログラムの間に、教団書記並び各神学校の教師たちに挨拶と新任教師たちへの励ましのメッセージを語ってもらった。最後に、久世そら教団副議長による開会礼拝をもって感謝をもってプログラムを閉じた。

(上原智加子報)

第16回教師委員会を新任教師オリエンテーションの前と、一日目終了後に行った。出席者は6名、陪席2名であった。

事務局より第42回教団総会準備委員会、教師養成制度検討委員会、裁判について中間報告、西中国教区からの抗議要望書、神学校日献金の配分について報告がなされた。また2022年度新任教師オリエンテーションの日程と担当者を確認し、若干変更を加えた。第42回教団総会報告書(案)を承認した。

(上原智加子報)

▲東北地方地震被災教会・会堂等再建支援委員会▲

東北教区5教会に対する支援を協議

東北地方地震被災教会 紀一担当幹事・星山京子
会堂等再建支援委員会では、昨年の東北地震に引き続き今年3月に福島県沖で起きたマグニチュード7.4の地震で被害を受けた教会を支援することも担っている。6月29日にオンラインで開かれた第10回委員会では、支援申請のあった東北教区の5教会に対する支援について協議した(篠浦千史委員長・黒沼宏一委員・河田直子書記、陪席／高橋真人東北教区議長・熊江秀一関東教区議長・道家

紀一担当幹事・星山京子
陸前古川教会は今回初めて支援申請したが、行政の被災証明では軽微と認定され、教団会堂共済組合から見舞金の対象外とされてしまったこともあり、申請額150万円を全額承認した。また名取教会に39万5900円、岩沼教会に28万2000円、中村教会に32万円をそれぞれ申請額通り承認した。須賀川教会からは320万7900円の申請があり、他の教会と比べて多額であることから、時間をかけて協議した。結果として、パイプオルガン修理代は半額6万4100円を支援することとし、総額260万3800円の支援を決めた。度重なる被害に、全額を支援したいところだが、委員全員で苦渋の決断となった。礼拝を豊かにし、地域にとっても大事なパイプオルガンであることはよく理解できるが、「会堂等再建支援」とする支援金の主旨に、

備品のパイプオルガンも含まれるかどうか、課題として残った。なお、関東地区の那須塩原教会には20万円の申請を承認済みである。

東北教区の5教会のうち、陸前古川教会以外の4教会は、昨年の地震でも大きな被害を受けており、度重なる被災に、心痛めるものである。昨年度からの募金収支決算では、70万近くの不足となっており、さらに今回の被災支援を加えると約600万円の不足が見込まれている。今後、どこでどのような災害が起きるかわかりず、そのためにもできる限りの募金に協力をお願いしたい。教団のHPにあるオンライン決済の募金窓口もぜひ利用していただきたい。

(河田直子報)

▼部落解放センター運営委員会▲

新主事を迎えて

前回報告以降、計4回の運営委員会を行った。第13回部落解放センター臨時運営委員会(3月11日、オンライン、運営委員出席15名、陪席8名)。第3回常任運営委員会(3月19日、オンライン)。第14回部落解放センター臨時運営委員会(3月30日、オンライン、運営委員出席11名、陪席5名)。これらの

協議を経て、以下3点を決議した。①上野玲奈さんを4月1日付で主事職に任じる。②斎藤成二さんを3月31日付で主事代行職より免する。③斎藤成二さんを4月1日から6か月間臨時職員としてセンターが雇用し、新主事への引継ぎ業務および夏期の実習生受け入れと全国会議に関わる業務に充てる。

これを受け、4月より上野新主事と共に部落解放センターの活動を開始した。第15回部落解放センター運営委員会を6月28

29日、教団会議室・オンライン併用で開催。運営委員出席13名、陪席9名。

約2年ぶりの対面開催となった。まず新主事を紹介し運営委員一同は歓迎の拍手で迎えた。次に、活動委員会報告と各教区報告を丁寧に行った。その次に、部落解放祈りの日礼拝について協議し、7月25日、尼崎教会・オンライン併用で開催し、礼拝内で上野主事の就任式を行うことになった。コロナ状況を受け、現地参加は制限が課せられるが、オンラインでの参加

東北地方地震被災教会支援募金
郵便振替口座
◎口座名 日本基督教団
◎口座番号 00140-9-145275
通信欄に「東北地方地震被災教会支援」とご記入ください。

事務局報

十時英二(隠退教師)



22年6月26日逝去、81歳。三重県生まれ。70年ハンブルク大学大学院修了。72年より玉川平安横浜磯子、ケルン・ボン日本語キリスト、信濃町ドイツ・ヴュルテンベルク州、桑名教会を牧会し、18年隠退。遺族は妻・南含さん。

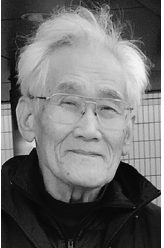
若月健悟(守谷伝道所主任担任教師)
22年7月1日逝去、71歳。福島県生まれ。77年同志社大学大学院修了。同年より国分寺、今治、会津若松、筑波学園、国分寺、諸川教会、守谷伝道所を牧会。遺族は妻・若月久美子さん。



川村輝典(隠退教師)



本田(山本)爽起子(隠退教師)



長島伊豆男(広島福島町教会主任担任教師)



若月健悟(守谷伝道所主任担任教師)

22年6月18日逝去、93歳。東京都生まれ。56年東京神学大学大学院修了。同年より武蔵野、弦巻教会を牧会し、08年隠退。遺族は妻・川村悦子さん。

正教師登録
大野 至、山内慎平(2022・6・23受按)
小松美樹(2022・6・25受按)

教師異動
杵築 辞(主)山本克三
就(代)竹井真香
曳舟 辞(主)上田光正
就(主)小国礼佳
西片町 辞(主)山本裕司
就(代)古賀 博
深沢 辞(主)齋藤 篤
就(主)齋藤 朗子
就(代)林 巖雄
仙台宮城野 辞(主)上野和明
就(主)小川幸子
就(主)齋藤 篤
盛岡松園就(主)上野和明
就(主)小川幸子
就(主)齋藤 篤
甘梁 辞(主)上原秀樹
就(代)荒谷 出
筑波学園辞(主)福島純雄
就(主)上原秀樹
福島 辞(主)保科 隆
就(主)福島純雄
福島荒井就(代)福島純雄
宮城学院 就(教)佐々木哲夫
所、(79年より)広島福島町教会を牧会。遺族は妻・長島文子さん。

補教師登録
小国礼佳、堀 成美(2022・5・30受允)
加藤 隆、佐々木玲哉(2022・6・5受允)

秋場治憲

カルト問題連絡会
よりお知らせ

日本基督教団カルト問題連絡会は、7月20日付で「統一協会被害に遭われた方々へ」という声明文を出しました。詳細はホームページをご覧ください。
<https://uccj.org/news/44045.html>

- 早稲田 就(担)柳澤宗光
喜連自由辞(代)平松洋一
就(主)永口裕子
清教学園中学校 就(教)羽島健司
本宮 辞(主)井田一郎
就(兼主)中條康仁
北千住 辞(主)柳下 仁
就(主)堀 成美
田園都筑辞(担)石田幸子
宿河原 就(主)石田幸子
藤沢ベテル 辞(担)北口沙弥香
愛川 就(主)北口沙弥香
三崎二葉会 辞(教)生野隆彦
昭島 就(担)秋場治憲
川谷 辞(主)清水与志雄
就(代)大川 清
田瀬 辞(主)若林治郎
就(主)清水与志雄
坂下 辞(兼主)若林治郎
就(兼主)清水与志雄
付知 辞(兼主)若林治郎
就(兼主)清水与志雄
前渡 辞(代)鈴木 光
用瀬 辞(担)岡岡スノ
リーなつみ
蕃山町 就(担)加藤 隆
岡山 就(担)佐々木玲哉
鶴見 就(代)古谷正仁
大牟田正山町 辞(主)梅崎浩二
就(代)筒井省行
広島府中就(代)向井希夫
上下 辞(代)梅崎須磨子
就(代)後藤 慧
頌栄保育学院
お詫び・訂正
新報4976・77号
1面「東京教区総会報告」欄、教団総会議員名「藤崎義宜」を「藤崎義宣」に、3面「東北地方地震被災教会支援募金献金報告」欄「九州教区」を「大阪教区」に、お詫びして訂正いたします。

2022年

在日大韓基督教会
日本基督教団

平和メッセージ

2022年 平和聖日

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄
在日大韓基督教会総会長 中江洋一

実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し…十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

(エフェソの信徒への手紙2章14、16節)

日本基督教団と在日大韓基督教会は、1984年に宣教協約を締結してから38年の歴史を神に導かれて歩んできました。わたしたちを結びあわせる主イエス・キリストは、十字架を通して敵意という隔ての壁を取り壊し、二つのものを一つにしてくださいました。わたしたちは、主イエス・キリストこそ和解と平和の主であることを信じ、2022年の平和メッセージを表明いたします。

<ロシアのウクライナ軍事侵攻について>

去る2月24日、ロシアがウクライナに軍事侵攻をしました。このことは、どのような理由をもってしても決して容認できるものではありません。

特に、この度、ロシアの大統領が核抑止部隊に特別態勢を取るように命じたことについて、世界で唯一の戦争被爆国である日本にあるキリスト教会として、何としても最悪の事態となることを防がなければなりません。

また、日本では、戦争にかこつけて軍事費を倍増させようとする短絡を問わねばなりません。

そこでわたしたちは、「悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ」(ペトロの手紙一3章11節)との御言葉に聴き従い、ロシアの軍事侵攻を押しとどめることができなかったわたしたち自身の罪を深く悔い改めつつ、ウクライナからのロシア軍の即時撤退を求めつつ、ウクライナとロシアの人々を覚えて共に祈りたいと思います。

<憲法改正の動きについて>

わたしたちは、「日本国憲法」の基本原則である主権在民、基本的人権、平和主義を護り、国家優先の憲法とする改憲の試み、また戦力保持

を是とする改憲の動きに強く反対いたします。

政府は緊急事態条項について、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症への対応が遅れたのは憲法に緊急事態条項がないためだと、その必要性を主張しています。しかし、災害等への対応は、法律の制定と適切な実施で十分な対応が可能であり、憲法を改正する必要性はありません。

また、この度のロシアのウクライナへの軍事侵攻を受けて、憲法9条を改悪しようとする動きもあります。

わたしたちは、このような憲法改悪を憂慮し、現憲法を擁護しようとする多くの住民とともに、引き続き、こうした動きに抗うことを表明いたします。

<新型コロナウイルス感染拡大について>

新型コロナウイルス感染症が世界の脅威となり、日本においても事態が深刻化しています。今この時も、ウイルス感染による痛みや悲しみを覚えておられる方々、悩みと不安の中にある方々の上に、主なる神の慰めと平安をお祈りいたします。

すでに、各教会では様々な工夫や取り組みが進められています。日本基督教団と在日大韓基督教会の全国の教会が、祈り合い、この大きな試練の中で、神の恵みを受け、喜びに満たされて礼拝をささげ、神の御栄光を現わすことができたと祈ります。

<ヘイトクライムについて>

日本では外国人に対するヘイトスピーチ、アメリカではアジア系住民へのヘイトクライムが横行しています。

わたしたちは、すべての人の命を贖うキリストへの信仰に基づき、「すべての人と平和に暮らしたい」(ローマの信徒への手紙12章18節)との御言葉に従って、差別のない社会が実現することを願い祈り、そのための愛による働きにあずかることを志しています。緊張と不安に満ちた今日状況の中でこそ、社会の中で弱い立場に置かれた人々の命と平安が守られ、支えら

れなければなりません。社会の動揺に乗じたあらゆるヘイトに反対し、この社会に生きるすべての人々の人権が守られるべきことを改めて表明します。

<難民・在日外国人の人権について>

新型コロナウイルス感染拡大により、各教会、学校、施設においても、この状況下での活動に苦闘しておられること、その労力の多大なことは想像に難くありません。日本に在住する外国人、とりわけ移住者や難民申請者たちへの差別が顕在化していることが報じられています。「自粛」を「要請」しながら生存に必要な「保障」を出し渋り、弱くされているところにさらなる圧迫と危機を与え続けるという差別的事態が広がっています。

また、日本では、ウクライナからの難民を「避難民」と区別しています。「難民」との差別的な処遇との差別がなぜ起きるのでしょうか。

この状況下で特に根深い差別意識と排外的政策によって引き起こされている出来事のほんの一断片であっても、連続して起こることに対して、それぞれの宣教における祈りと支援の連帯を喚起していきたいと思います。

<貧困の拡大について>

日本では、貧困が拡大しています。そのために、就職難、不安定雇用の常態化、学校でのいじめ、不登校、職場でのいじめ、嫌がらせが増えています。

このように、経済格差を理由に、教育格差、学力の格差、意欲の格差が広まっています。無縁社会の拡大が、つながりの格差を生み、人が本来持っている特性や可能性が活かされず、弱者に落とし込まれ、社会から排除されて漂流せざるをえない人々が増えているのです。

わたしたちの教会は今、地球を席卷する過酷なグローバル経済の下で、激変していく社会にあって、この世に遣わされたキリストの体なる教会として、寄留者を歓待の精神で迎えながら、単にナショナルな教会ではなく、移民排斥・マイノリティ排除に抗して、寄留者が招き入れられる「神の家族」(エフェソの信徒への手紙2章19節)として改革されて行くことが求められています。それは同時に、教会自体が今から次の時代へと、頭なる主イエス・キリストによって生かされ、遣わされ、用いられる道であるとわたしたちは確信します。



主に育まれた者として



1940年東京生まれ。広尾教会員、執事

有馬 一字さんは豊分教会(現、広尾教会)員だった両親の下に生まれる。クリスチャン家庭に育ち中学、高校、大学と青山学院に学んだ。高等部卒業時に同窓会委員に選ばれ、さらに校友会監事、学院評議員、理事を務めることになる。現在まで続く母校との関わりは後に教会を支えることになるが、当時は教会に行く機会は多くなかった。卒業後は戸田建設に入社。大きな現場の資材主任や秘書課長、人事部長等の責任のある仕事を任される。「能力以上のものを求められたことで成長できた」と振り返る。

28歳で高等部の後輩の富美子さんと結婚。その頃は仕事として大きく発展し、地域に仕える姿を証し続けています。言うまでもなく、横須賀は在日米軍の重要な海軍基地として、原子力空母が入港する港として世界に知られている街です。これは「終戦後の混乱と窮乏の中、横須賀に着任した米海軍横須賀基地司令官のベントン・W・デッカー大佐の熱心な激励により、キリスト教の精神

のため教会に殆ど来ていなかったが「きちんと神様の前で約束をしたい。これからの歩みを神様に委ねたい」と、はたと思われた。そこには父の祈りがあったのだろう。富美子さんと共に豊分教会で伊藤興雄牧師より受洗し結婚に臨んだ。結婚後は夫婦で教会に通うも、やがて激務のため教会を長く離れた。

その後高齢になった父の世話をする中で問安に訪れる牧師や教会員と交流が生まれる。父の召天後に礼拝生活を再開。程なくして突然の無牧となり、教会が苦難の時代を迎えたさなか執事に選ばれた。2年以上の無牧期間、説教者を欠かさず招聘するにあたり有馬さんの母校との関りが生きた。仕事で培われた組織を動かす力も執事として必要な賜物であり、人的な繋がりも教会で工事を行う際に用いられている。礼拝から遠ざかっていた期間も、教会に仕える時のために主が有馬さんを育てておられたのだろう。

現在、広尾教会の教会学校には有馬さんの「後輩」たちがたくさん集まる。キリスト教主義学校で聖書に関心を持った子供たちが御言葉を聞いて信じることで自分の言葉で祈ることが願いである。

横須賀にある社会福祉法人「日本医療伝道会衣笠病院」創立75周年の記念礼拝(8月6日)に教団からの祝辞を求められました。この病院の創立の経緯を見ると、1947年8月1日に35名の医療スタッフと80床の病院として出発した最初は、「日本基督教団衣笠病院」となっています。教団立の病院であったことに驚かされます。現在も一貫して「日本医療伝道会」の名前を保持してチャペルを設け、教会とキリスト者を中心とした総合的な医療と社会福祉の働き

として大きく発展し、地域に仕える姿を証し続けています。言うまでもなく、横須賀は在日米軍の重要な海軍基地として、原子力空母が入港する港として世界に知られている街です。これは「終戦後の混乱と窮乏の中、横須賀に着任した米海軍横須賀基地司令官のベントン・W・デッカー大佐の熱心な激励により、キリスト教の精神

剣を打ちかえて鋤となす

に基づき医療奉仕をすることを使命として日本基督教団衣笠病院として開設：」この事情が伝えられています。横須賀には「横須賀基督教社会館」もあり、これも同じ事情によって開設された施設です。まさに、「剣を打ちかえて鋤となす」働きがこの横須賀の地で継承されているのです。日本基督教団として、ここに、この働きがあることを銘記して、共に祈り支え合う交わりにあることを覚えなければならぬと思われました。(教団総幹事 秋山 徹)